

**平成 28 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (松阪市) 会議録**

1. 対談時間

平成 28 年 8 月 1 日 (月) 19 時 00 分～20 時 00 分

2. 対談場所

松阪市産業振興センター (松阪市本町 2176 番地)

3. 対談市町名

松阪市 (松阪市長 竹上 真人)

4. 対談項目

- 1 松浦武四郎の生誕 200 年について
- 2 国に対する牛肉輸出に際しての二国間協議の早期推進の働きかけ
- 3 和牛サミット (仮称) の開催に対する協力について
- 4 松阪版ネウボラの推進について
- 5 木材生産に伴う森林更新の促進について
(杉桧の植林～クヌギの植栽へ)
- 6 東京駐在所の開設に伴う支援について

5. 会議録

(1) あいさつ

知 事

竹上市長、きょうは、大変お忙しい中、お時間をいただきましてありがとうございます。また、夕方出にくい時間にたくさんの皆さんにお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

まずは、昨日、櫛田川で小学生の女の子が亡くなるという大変悲しい事故がありました。心からご冥福をお祈りしたいと思います。お子さんやお孫さんなどと自然遊びをしていただくことは、三重県の自然というのは魅力でありますので、うれしいことでありがたいことではありますが、安全にはくれぐれも注意していただき、尊い命が失われることがないように、ぜひ、皆さん大人が注意の目を光らせながら取り組んでいただくようによろしくお願いいたします。

さて、5 月 26 日 27 日の伊勢志摩サミットにおきましては、竹上市長をはじめ、松阪市の皆さんに大変お世話になりまして、ありがとうございました。後に松阪牛の話は多分大いに出てくると思いますので、あまり触れませんが、松阪牛以外にも、松阪の関係では椎茸、タマネギ、アラゲキクラゲ、松阪赤菜、お茶であるとか、あとはゴボウ、ニンジン、白ネギ、サ

ツキマス、鶏卵、ミニトマトなどたくさんの松阪の食材も使われました。また、ベトナムの閣僚の皆さんにも松阪を訪れていただくなど、大変ご協力いただきまして、無事、大成功に終えることができました。ぜひ、これを生かして、今後、ベトナムとの交流などをはじめ、松阪市と連携してやっていきたいと思っておりますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

それから、きょうも子育ての話題が出ると思いますが、7月20日に、竹上市長もイクボス宣言をしていただきまして、どうもありがとうございます。その中でも「隗より始めよ」で、週一回は家族と食事をともにしていただくということですので、ぜひ、これが実現されることを期待しております。

また、第三銀行や三重信用金庫、JA松阪と移住の包括協定を結んでいただいたと聞いております。現在、我々も、移住促進の取組をやって、いろいろな関心を示していただいているのですが、市町においていろいろな体制を整えていただくことが、移住が実現するために大変重要でありますので、ぜひ、そういう体制整備をよろしくお願い申し上げたいと思っております。

きょうは、大変多岐にわたる話題ではありますが、ぜひ、一つひとつ前向きに前進ができるような時間としていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。本日はよろしくお願い致します。

松阪市長

改めまして、皆さん、こんばんは。本当にお忙しい中、鈴木知事には松阪にお越しいただきまして、本当にありがとうございます。昨年の12月、1回目の知事と市長の1対1対談をさせていただきました。その後、正月の特番と一緒に撮影をいただきまして、非常に楽しいひとときを過ごさせていただきましたが、前回の12月にお願いしたことの中で、特にまず、MRJの関係について、鈴木知事にお願いをさせていただいたところ、早速にさまざまな形で実現をいただいております。非常にスピード感を持って対応をいただいているところでございます。

それから、床上浸水ゼロ対策について、自分自身の選挙公約として出したものを知事にお願いしたのですが、この件についても12月にこの対談があって、翌月の1月に県から現地調査、そして、2月に検討会を立ち上げていただきました。今も県の機関である松阪建設事務所が事務局になっていただいて、さまざまな河川の解析や調査をいただいている真最中でございまして、こちらもすばらしいスピード感をもって立ち上げをいただきました。心から感謝をするところでございます。

そして、一つ、残念というか、これからもお願いをしていきたいというのが大学誘致です。前回、なんとか大学誘致をやっていきたいというなか

で、県からも調査をしていただき、このほど調査結果が出てきました。ただ、残念なことのひとつが、三重県を特定して進出をしたいという大学や学部が今のところ、ないという結果でございました。

ただ、そのなかで、これは希望を持ったという話を一つ申し上げますと、調査をした大学の中の約4割が、新たな学部をつくりたいと思っています。しかも、条件的には、土地がちゃんと整備されており、その運営に対しても、そこの自治体が協力をしてくれるなら、進出してもいいというのが大体の調査結果でございました。これなら、我々の努力次第でまだ何とかできる部分がたくさんあるだろうということも思わせていただきました。あまりこの場を要望合戦の場にはしたくはございませんが、やはり県の協力なくして、なかなかできない部分がたくさんございます。そういった意味合いから、さまざまに知事のお考えを聞かせていただきながら、一步、一步、前へ進めるような、県と我が市が協力しながら市民の皆さん、県民の皆さんのためになるような対談になれば、こんなありがたいことはございません。この場を設定いただいたことを、心から感謝を申し上げ、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

本日は、ありがとうございます。

(2) 対談

1 松浦武四郎の生誕 200 年について

松阪市長

まず、一つ目の項目が、松浦武四郎の生誕 200 年についてです。平成 30 年 2 月、松浦武四郎の生誕 200 年ということで、今、松阪市では、松浦武四郎の生家を文化財として保存をしていこうということで、リニューアルに向けて整備を行っている真っ最中でございます。

さらに申し上げれば、明治 2 年、北海道という名前が決定をいたしました。それまでは「蝦夷地」と言われていたのが、北海道という名前になりました。これがちょうど平成 30 年の 8 月で北海道命名 150 年というメモリアルイヤーに当たります。この北海道の命名者は松浦武四郎でございまして、北海道では、今、この 150 年に向けてさまざまな取組をしていこうとされていると伺っています。「北海道 150 年記念事業」ということで「道民検討会議」が開催されております。北海道大学の総長が委員長になりまして、高橋知事やさまざまな団体の皆さん方がそれに協力をいただいています。

中でも今回、この道民会議の中で、キーパーソンは松浦武四郎だという話が出ています。三雲管内の皆さんはよくご存じですが、旧松阪の方が松

浦武四郎さんのことをわかっていただけていない部分もたくさんあります。松浦武四郎さんという方は伊勢街道沿いで生まれ育って、一生を旅に捧げた人でございます。その旅に捧げる中で、九州にいるときにロシアが蝦夷地をねらっているという話を聞きつけて、いても立ってもいられずに北海道へ行きました。そのなかでアイヌの皆さん方にふれ合うわけです。当時は松前藩がアイヌの皆さん方を迫害しているような歴史があります。そこへ敢然と立ち向かっていった。そしてまた、明治政府になってからも役人として仕えながら、この北海道の詳細な調査を成し遂げたという功績があるのが松浦武四郎さんです。

私は今度、8月3日から二泊三日で北海道にお邪魔する予定になっております。そこで何をしたいかと言いますと、ぜひとも松浦武四郎さんを全国に広めたい。そして、我々の松阪市、三重県をアピールしていきたいという思いでございます。ちょうど高橋知事との面会の時間も取れたところでございます。ぜひとも松浦武四郎さんのドラマ化ができないだろうか、といったお願いを北海道の市長会や町村会、また、知事にもお願いをしていきたい。そして、北海道と私どもの松阪が、松浦武四郎さんつながりでさまざまな連携事業を、この生誕200年、また、北海道命名150年に向けてやっていけないものか、そういったことを今回、お願いをしようと思っております。高橋はるみ知事に面会に行くということでございますが、鈴木知事も一緒に行ってもらえないかというのが私のお願いでございます。ぜひともよろしく願いいたします。

知 事

ありがとうございます。松浦武四郎さんの生誕200年は、私自身も2期目の知事選挙に出るときの政策集の中に、松浦武四郎さんの生誕200年の記念事業をぜひやりたいということを書かせていただいておりますので、今、竹上市長がおっしゃっていただいたように、松阪市と連携して、ぜひ、記念事業を県としても取り組んでいきたいと思っております。

また、いろいろな草の根で取り組んでいただいている皆さんもたくさんおられますから、そういう皆さんと一緒にパッケージで松浦武四郎さんが顕彰される、盛り上がる取組となればと思っております。

松浦武四郎さんは、今、少し竹上市長からもご紹介いただきましたが、少し前に大河ドラマとかでブームになりました吉田松陰さんも、松浦武四郎さんのところに何度も足を運んで、ロシアから伊勢神宮や日本を守るためにはどうしたらいいのかということ、教えてもらっていたということも含めて、その教えを請うた吉田松陰さんが、幕末の志士を育てていったということでもありますから、幕末の日本が激動で変わっていく時代の思想

的影響をいろんなところに与えた人が松浦武四郎さんですので、ぜひ全国に知っていただくことは大変重要なことであろうと思います。

さらに、北海道の「海」の字は今、皆さんご案内のとおり海ですが、最初、「加」えるに伊勢の「伊」で、「北加伊道」だったのですが、そういうところも何かの縁を感じますので、ぜひ、三重県としても松阪市と連携して、三重県総合博物館で、北海道の博物館とも連携して巡回展のようなものもやりながら、松浦武四郎さんについて、広く知ってもらうような取組も含めて、全国に発信をしていきたいと思っています。

それから、8月3日からの北海道訪問については、残念ながら別の公務があるので、石垣副知事を竹上市長に同行させますので、ぜひ一緒に行っていただければと思います。この7月28、29日に全国知事会がありましたので、高橋知事と既に話をしてきました。まずは、「竹上市長が8月3日に北海道に行くのでよろしくお願ひします。」、「松浦武四郎さんの生誕200年で盛り上げるので、ぜひよろしくお願ひします。」と伝えたところ、高橋知事は「わかりました。北海道の命名150年もありますので、一緒にやりましょう。」とおっしゃっていました。さらに、平成30年のどこかのタイミングで、名目は松浦武四郎さん生誕200年なのか、北海道命名150年かわかりませんが、「三重県へ行って、皆さんと一緒に盛り上がりたい。」ということまでおっしゃっていただいておりますので、ぜひ、今後、さらに詰めていただいて、一緒に我々も連携していきたいと思っています。その中でドラマというのも一つの方法だと思いますので、民放なども含めて、ぜひ、いろいろ働きかけをしていきたいと思っています。

あと、先ほど吉田松陰さんと松浦武四郎さんの連携の話をしましたが、平成30年は、ちょうど明治維新150周年です。明治維新から150年という年なので、実際にできるかどうかわかりませんが、明治維新に関係した薩長土肥の鹿児島とか山口とか高知とか熊本の皆さんは、連携事業を考えているみたいなので、そういう事業ともコラボする機会があればコラボしてもいいのかなと思っています。いずれにしても松浦武四郎さんを全国に広めていくために、松阪市、いろいろなご協力いただいている市民の皆さんと連携して取り組んでいきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思っています。

松阪市長

知事、ありがとうございます。本当に私がうれしいと思うのは、事前にこういった形で松阪市が北海道に行きますという話をした中で、副知事にも一緒に行きますというお話をいただいて、本当にありがたいと思いました。これから北海道と連携していく中で、北海道というのは非常に広大な

ところですから、市だけではなく、三重県という看板でもって連携をはかっていかないと、なかなかうまくいかないと思います。そういった意味で非常に協力してやっていただける。今も博物館での企画展というお話もいただきました。非常にうれしくありがたく思っております。またこの勢いで平成30年に向けてさまざまな取組をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2 国に対する牛肉輸出に際しての二国間協議の早期推進の働きかけ

3 和牛サミット（仮称）の開催に対する協力について

松阪市長

それでは2番目と、3番目も牛に関する話でございますので、ある程度まとめて、させていただきたいと思っております。

これからの松阪牛の方向についてということです。先ほども知事が触れていただきましたが、この5月に伊勢志摩サミットが開催された中で、首脳陣の皆様方とその配偶者の皆さんで、全部で6回、食事の機会がありました。ありがたいことに6回とも松阪牛を使っていただいています。これは我々松阪牛に関わる生産者や関係者の皆さん方が本当に松阪牛というものに矜持と申しますか、プライドを持って、また、誇りと自信を持ったというのが今回のサミットだったと私は思います。

さらに、もう一つうれしい話を申し上げますと、やはり相可高校です。世界の首脳、その配偶者の皆さん方に食事を提供するという事は、多分、日本でも一流のシェフでないとなかなかできない話を、地元の相可高校の調理学科の皆さんに任せていただきました。これは多分、県からの相当なプッシュがあって実現したんだろうと思っておりました。このことに関して、外務省も粹な計らいをしてくれました。そして、県も本当にバックアップをしていただきました。非常にうれしく思いました。

一つ、裏話を申し上げますと、松阪肉と一緒に松阪のお茶を出したんです。飯南のお茶の生産どころへ相可高校の生徒が何回も通ったということです。いかにしたらおいしいお茶が出せるかと。そのためだけに何回も通って教えていただいて、それを配偶者の皆さん方にお出ししたという、本当に並々ならぬ努力の結果が、ああいった食事に表れているということでございます。非常にうれしいことではございました。

それはさておいて、二つの方向と申しますのが、1月に知事と一緒に三重県フェアで香港へ行かせていただきました。そのときに商業輸出として3頭分を初めて香港に持って行ったんですが、香港のほとんどの方が松阪

肉を認知し、日本のスペシャルな牛だということで松阪肉を認知していただいているということに、非常に驚きました。そのなかで海外への可能性を十分に感じて帰ってまいりました。やはりこれから日本の国内人口が減っていく局面を迎えて、私たちはブランド牛というこの松阪肉を守り育てていかななくてはならないという立場から言うと、やはり一つの方向として海外がございます。

それと、もう一つが、国内、いわゆる松阪肉を食べていただける皆さん方に、更にもう一度、松阪肉というものをアピールしていくかと、この二つの方向があるだろうと思います。それは特に国内においては競争ではないだろうかと。やはり全国のブランド牛と言われるところが互いに切磋琢磨しながら、そして、互いのよさを認め合っていくことも、これから必要だろうと思っています。

そこで、まず海外の話进行申し上げますが、これは、特に県とさらに国の話でもございますが、月齢制限というのがあります。松阪肉の一番の特徴は何かというと、長期肥育です。いわゆる特産と言われる松阪のブランドを守っている牛というのは、42カ月も飼育します。ですから、長期肥育というのが松阪牛の特徴です。

ところが、月齢制限というのが、海外への輸出には引っかかってきます。30カ月よりも長く飼っている牛は受け入れないという国が何カ国かあります。そういう月齢制限をまず撤廃してほしいと思います。こういった月齢制限がある国がマカオやタイです。今、輸出として持っていくのがOKな例えば香港などは、月齢制限がありません。また、今度、シンガポールへ松阪肉を輸出をして持っていくますが、今、シンガポールへは空港で5キロまでは土産物として持っていくことができます。そういった取組を、特に富裕層が多い香港などでも、二国間で協定を結ぶような働きかけをしてもらいたいと思います。

さらに、もう一つ、アジアの重要なターゲットがあります。特にこれは三重県が今までずっと力を入れてきたさまざまな取組、絆を築いてきた台湾です。三重県と台湾の関係というのは、私は非常に深い絆があるとずっとと思っています。この台湾が残念ながら、まだ輸出が解禁をされていません。ですから、何とか台湾政府に働きかけて、ぜひとも台湾に日本の牛肉を輸出ができるようにしていただきたいと思っています。

もう一つ、国内の話、これは何をしたいかといいますと、和牛サミットをやりたいと思っています。5月にサミットがあつて、今年は準備が整いませんが、ぜひとも、全国の名だたる、例えば神戸ビーフや近江牛、米沢牛など、もちろん私どもの松阪牛も含め、さまざまなブランド牛が全国にはあります。その互いのよさを認め合い、そして、違いを知っていただく

和牛サミットというのを計画できないかと思います。

やはり、これからTPPが、どうなるかわかりませんが目の前にあります。そのなかで国産の和牛というものは、いかに違うか、いかに愛情と技術を持って育てられているものなのかというのを、全国の皆さんにもっともっと発信していく必要があると私は思います。そういった意味で、これをなかなか対外的に松阪市だけで皆さんどうぞというよりも、県の力も借りながら、各県へそういったお願いもしながらやっていけないものだろうかと思っています。

さまざま申し上げましたが、いろんな形でそういうサミットであるとか、二国間の協議であるとか、市だけではできない部分がたくさんありますので、ぜひともそういった協力をいただければと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

知 事

ありがとうございます。まず、竹上市長からサミットのときの相可高校の活躍についてお話をいただいて、本当にありがとうございました。高校生に調理を任せるというのは、最初、外務省であるとか相可高校のことを知らない人たちに理解してもらい、それを実現するのは、結構ハードルが高かったのですが、絶対に実力が伴っているので間違いのないと言い続けましたし、とりわけ、安倍昭恵夫人がそういう子どもたちをぜひ使いたいというようなことを言ってくれていましたので、実現することができました。彼らも自分たちの実力や、あるいは三重県の食材が世界に通じることを実感できたと言ってくれていましたので、非常によかったと思っています。

まず、1点目の牛肉輸出の二国間協議の働きかけについては、これまでも一応、タイ、香港、マカオ、台湾といったあたりは国に対して提言をしてきましたが、今、市長がおっしゃっていただいたように、サミットで間違いなく松阪牛のよさを本当に多くの人たちに感じていただきました。インバウンド、外国人観光客が去年1年間通年で、対前年伸び率が全国2位で、サミット決まった後の7月から12月では、対前年で全国1位の伸び率になりました。外国人の方々にたくさん来ていただいて、松阪牛をたくさん味わっていただいて、「これはうまい、食べたい。」と思っても、輸出できませんではもったいない。今までもそういう働きかけはありましたが、サミットやインバウンドが急激に増えているというこの気運を逃さず、今、市長がおっしゃっていただいたように、月齢制限のあるタイであるとか、携行品として輸出ができる香港であるとか、それから、輸入停止の解除に向けた台湾といったように、国別のしつかりとした働きかけをやっていきたいと思っています。

とりあえず台湾につきましては、B S Eが国内発生した 2001 年からの輸入停止で、そこから相当に国内の牛肉の状況は変わっていますので、それに対してはしっかり働きかけてほしいということを改めて言っていきたいと思っています。

国のほうでも、相手国の輸出規制にどう対応していくか、それを解除してもらおう働きかけをしっかりとやっていこうということで、新たに内閣官房に「輸出規制等対応チーム」というのを設置してもらいました。もうすぐ閣議決定される経済対策でも、きっとそういう農林水産物の輸出強化をしっかりとやっていくということが書いてありますので、この 3 日に内閣改造もあるということですから、従来は 11 月ぐらいに提言に行っていますが、それにとらわれず、また、竹上市長とも一緒に国に改めて、提言に行って、こういう想いであるとか、今がチャンスだということをしかり働きかけていきたいと思っています。

それから、有望市場ということで、タイと合わせてベトナムなども国は位置づけていますので、松阪市とベトナムの交流が更に進んでいく中で、ベトナムも一つのマーケットと見ていければいいと思っています。

先般、私が、全国知事会で提案をして提言に盛り込まれたことの一つは、東京オリンピック、パラリンピックでは普通ですと、そこで提供される食材は、国際認証を受けているもの、グローバルギャップとかH A C C Pとか、そういう認証を受けているものしか受け入れられない可能性が、過去の大会を見るとあるのですが、そういう認証を取るのは大変なので、広く国産の食材がしっかりと使われるようにということと、仮に認証が必要になるなら、その認証の取得のハードルをもっと下げてほしいというようなことも、国に提言をしているところであります。全国知事会でもそれを了承していただいて、全国知事会として提言していくことになっていますので、そういうことも当然、東京オリンピック、パラリンピックという一つの節目もにらみながら、松阪牛のことについて、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。

それから、和牛サミット、よろしいですね。竹上市長はよくご存じだと思いますが、5年に1回開かれる「全国和牛能力共進会」という、和牛日本一決定戦とか言っている大会があります。でも、これはほとんどが種牛の大会です。皆さんご案内のとおり、松阪牛は未経産の雌牛です。5年に1回、日本一の和牛を決めると言っている大会は、種牛の大会です。そこでいつも宮崎県知事とかが、「うちは能力共進会で1位ですから、うちの和牛が一番ですよ。」と言われるのですが、これは種牛の大会ですから、和牛サミットをやって、やっぱり雌牛も種牛もいろいろあって、その中でうまいものがいろいろある。だから、そうやって種牛のところで1位にな

ったから、自分たちが日本一だと言っているとはいけないということを、全国中に知ってもらえるような形でやらないといけませんので、和牛サミット、開催費補助はできませんが、人的な、また、牛を連れてくるために防疫措置が必要ですので、きちんと衛生管理するための技術的なもの、あるいは全国的な告知宣伝、あるいは、ほかのブランド牛に来てもらうために他県にお願いすることなども含めて、種牛の大会の人たちが日本一だと言わせないように、ぜひ和牛サミットをやりたいと思いますので、一緒に協力したいと思います。

松阪市長

ありがとうございます。先ほど海外で知事からベトナムの話をいただきまして、実は我々のターゲットの一つでもあります。ベトナムは、多分、会場に来ていただいている皆さん方はお詳しいと思いますが、ベトナムのホイアンと松阪市は今、非常に友好的な関係にあって、この8月にも、副市長がホイアン市へお邪魔させていただくことになっています。というのは、一つの説がありまして、松阪木綿の原形は、どうも角屋七郎兵衛さんあたりがホイアンから持ち込んだ、あの藍染めの縦縞から来ているのではなかろうかという説がございます。これは本の中に、いわゆるベトナムの「柳条布」と言われるものが松阪木綿の原形というふうなことも文献には書かれてありまして、そういった関係もございまして、ホイアンとは、角屋七郎兵衛さんを通して非常に友好的な関係を結ばせていただいています。そういったことで、毎年開かれるフェスティバルに松阪市からも行かせていただいています。そのホイアンの中に日本橋というのがあります。これは、天皇陛下がベトナムを訪問された際に、そういったことにも言及をされました。日本の先人たちが、このホイアンで日本人街を築いて、そこで日本橋というものをつくって地域に貢献をしたと、そんな歴史があるんだということもおっしゃっていただきました。

そういった我々とベトナムの関係があって、サミットのときにアウトリーチ国であるベトナムの官房長官を含め閣僚3名が、サミットの合間を縫って松阪市にも来ていただきました。

そういった関係から、日本橋とのつながり、また、松阪市と東京都中央区の日本橋ともつながりを持っております。松阪の商人たちが日本橋へ進出して、そして、江戸の町文化に協力をしてきた。そこで豪商として大きな発展を遂げていくと、そんな歴史がございます。そういった歴史をたどりながら、今後、互いに Win-Win の関係になるような取組ができればと。その中で松阪牛の輸出もできていければというようなことも思っております。ぜひとも牛以外にもさまざまな交流を経ながら深めていきたい。また、

そういった面で三重県にも協力をしていただかないと、対国の話になりますと、市だけではできない部分がたくさんありますので、ぜひともそのような協力をいただければと思っております。

4 松阪版ネウボラの推進について

松阪市長

続きましては、「松阪版ネウボラの推進」でございます。前回にも議題として上げさせていただきました。いろいろと進んできています。特に来年の4月、松阪市には、新健康センターが完成します。去年の12月の段階では、子育て世代の包括支援センターを平成27年に、国の補助をいただいて創設ができましたという報告を知事にさせていただきました直後だったと思います。そこから更に今、建設が進んでいる新しい健康センターを、子育てを支援するネウボラの拠点施設という形で我々は位置づけをしていこうと思っております。

そこで、ハードの部分もちろんですが、ソフトの部分が非常に大事でございまして、いかに切れ目のない支援ができていけるかというのが、これから目指していかなくてはならないところです。

実は、総合計画を策定するにあたり、5,000人アンケートを実施させていただきました。今回、非常に事細かくお尋ねする中で、子育てに関するライフステージごとにどんな支援が必要かをお聞きしました。例えば、結婚前、結婚相手を探すときに一体どういう支援を皆さん方が考えているのですかと。妊娠時、出産時でどんなことを望まれますか。さらには、幼児期はどうですか。学校へ上がるようになる就学期に入るとどうですか。思春期はどうですか。総じて子育てで一体どんなことを、どの時期に、どういった支援を一番してほしいんですかなど、こういう内容の質問をしました。

まず、結論から申し上げますと、いろいろ細かな数字はありますが、どの時期が一番支援をしてほしいかというのと、乳幼児期です。乳幼児期のときに支援をしてほしいというのが約2割。いろいろ皆さん思っておられますが、例えば乳幼児期は、やはり保育園であるとか幼稚園であるとか、そういったところの支援を一番に考えている。そのほか非常にずっと高いのが、急なケガや病気のときに、きちんと見ていただけるようなものがあること。こういったことが子育てをしている皆さん方が感じているところです。

それをどうやって具現化していくかということで、今、我々が考えているのは、例えば、来年度の職員募集の時期に入っておりますが、今、私どもの保健師は正職員で41名です。退職者はいませんが、正規で3人増やそ

うとしています。うまくいけばキャリア採用をやっていききたいという形で、まず、保健師を増やしていきたいと考えています。子育てというものに関して、前線で頑張ってください職員を増やしていかない限り、実現をしていかない。また、保健師や保育士と話したことが一回もない。そこでまず保健師や保育士と話す機会をつくろう、そういう懇談の場を設けることも今年から始めました。切れ目のない支援をやっていこうと思えば、まず、我々も部をまたいできちんとつなげるシステムをつくっていく、これが大事だろうと思います。

ほかにもやらなくてはならない課題は山ほどあります。例えば、妊婦の皆さんはやはり栄養がどんどん赤ちゃんに取られますので、非常に歯が弱くなる、歯が抜ける方も本当にたくさんみえます。そういったことから、きちんとした歯科のこともそうです。

私どもも「歯と口腔の健康づくり推進条例」というのをつくりましたので、そういった意味からも、妊婦さんの歯科検診も必要で、やるべきことがたくさんございます。

そこで、私どもが一番願うのは、総合的な交付金のメニューをつくっていただきたい。事業として立ち上げて、そこに補助金をつけていただくというやり方よりも、各市町がいろんな提案をしながら、事業をやっていくと思います。その事業に補助金を出すのではなく、総合的な交付金で、各市町の特色を生かした子育てに対して、県は後ろから支援しますというやり方をぜひともやっていただけないか。我々の松阪市でも、旧市内と飯南や飯高では、一緒の町でも随分違います。県下全体になると、相当違ってくるでしょう。そうなる、一緒のメニューではなかなかできないということかと思い、ぜひともそのあたり、お考えいただければと思います。どうぞよろしくをお願いします。

知 事

ありがとうございます。竹上市長が子育てナンバーワン宣言を掲げて1年ちょっとですか、急速に松阪版ネウボラが進んで、子育て支援をすごく頑張っていることに敬意を表したいと思います。とりわけ、小児科、産婦人科などの連携、医師、保健師、助産師、そのあたりの皆さんの連携というのが、非常に県内他市町と比べて進んでいます。当たり前だとみんなが言うぐらい連携をしてもらっています。

今度、三重県で行います母子保健の関係の研修で好事例、頑張っていたっている事例として、松阪市の保健師さん、助産師さんに話していただくというぐらい、非常に一生懸命やっていたに敬意を表したいと思います。

連携といっても、普通にすればいいのではないかと思われるかもしれませんが、関係者の方がいらっしゃるかもしれませんが、そういう資格を持っている人たち、特に医療の関係の多職種、違う多くの職種の人たちが、顔が見える関係になって、自分が保健師であそこの助産師さんとどうか、あそこのお医者さんとどうかというのを顔が見える関係にしておくことは、相当難しいことで、それをちゃんとやれているというのは相当にみんなの意識が高いということですので、松阪市がそれをやっていただいているのは、大変ありがたいことだと思います。

それから、先ほど歯科検診の話で、妊婦の歯科検診の話を竹上市長がさらっと出していただきましたが、これは県内で29の市町のうち、10市町ぐらいしかやっていません。市でやっているところは四日市市と名張市だけです。この松阪管内でやっているのは大台町だけというぐらいで、本当に先進的なことを今、竹上市長がやるぞと言っていたら、大変ありがたいことだと思います。

それから、保健師を増やしていきたいということについては、このネウボラというのは、フィンランドという国から発祥していますが、フィンランドのネウボラは、まさに保健師の皆さんが主役で、特定の保健師さんが特定の家族を継続的に、何か危機に陥る前に見るとというのが一つの仕組みなので、そこに近いように持っていこうということで、ご努力をいただいていることに敬意を表したいと思います。

そんななかで、総合的な交付金の話ですが、僕が平成25年に国の少子化対策の委員をやっているときに、僕が国に対して主張したのが、まさに今、竹上市長が僕におっしゃっていただいたことと全く一緒でした。つまり、少子化対策というのは、例えば結婚に原因があるところもあれば、子育てに原因があるところもあり、いろいろと地域によって事情が違います。同じ県内でも違いますという話をし、国で交付金をつくってほしいという話をして、結果、30億円の交付金ことができました。今まで補正予算でしたが、今年度から当初予算に盛り込まれるようになりました。ですので、今、竹上市長がおっしゃっていただいた、その交付金を使えていけるように使い勝手よく変えてくださいということが、今回の全国知事会でも非常に大きな課題になっていましたので、この交付金をもっともっと市町の皆さんが使いやすく、地域の実情に応じてできるようにというのが一番大きい話だったので、まず、国が持っている交付金と同じ趣旨の交付金を県で持つというより、国が財源をたくさん持ってやっている交付金のところで松阪市の思いがかなうように、一緒になって使い勝手を変えていくということ、ぜひ、松阪市と一緒に取り組んでいきたいと思っています。

それから、せっかく歯科の話を言っていたら、フッ化物洗

口の話も、県としては全市町の小学校でフッ化物洗口に取り組みたいと思っていますので、松阪市さんは先進的に郡市の歯科医師会の皆さんと一緒にしっかり取り組んでいただいていますので、現場の皆さんのご理解も得ながら進めていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしく申し上げます。

5 木材生産に伴う森林更新の促進について (杉桧の植林～クヌギの植栽へ)

松阪市長

ありがとうございます。フッ化物洗口も頑張っています。

テーマが非常に盛りだくさんで欲張っていますので、続いていきたいと思っております。松阪市の特長の一つの産業ですが、林材業の件です。

松阪市は、本当に林材を使った林材業が非常に盛んなまちでございます。全国三大集積地という言葉がありますが、その一つが松阪だと言われております。

ところが、今、本当にこの林材業の危機、一言で言ってそういう状況になっていると感じています。特に売れていかないんです。木は、皆さんご存じのように山にあります。木はあって、それが市場へ出てきて、それを引いて材として柱材や桁、さまざまな内装材など、いろんなものにして、それをまた市場に出していくという産業の循環ですが、その出口のところが本当に今、薄くなっている。なかなかここがうまくいっていないのが現状です。

ですから、私どもは来年度へ向けて、そのための組織づくりをなんとかやっていきたい。出口戦略のための組織をなんとか整備していきたいということで考えております。

それと、もう一つ、大きな流れとしてバイオマスというのがあります。いわゆる環境の流れです。これは既に松阪市内では、平成26年11月から木質のバイオマスの発電所を整備、稼働を始めました。先月、多気町に新たなバイオマスの工場ができあがりました。さらに、県内では津市にもでき上がるようになっていきます。我々もさまざまな努力をしています。例えば、個人の皆さん方に自分のところの山で放置をされている木を出してください。軽トラで持って来てくださいというお願いをして、それに対して、一部補助を考えましょうというやり方をして、これだけで年間1,500トンも集まってきます。

ただ、今のバイオマスの規模からいうと、1,500トン程度では少なく、3つのバイオマスの発電所を動かそうと思えばこれの100倍、多分、15万～20万トンあたりの数量が必要になってくる。今の私どもの市内にあ

る木質バイオマスの工場でさえ、大体年間、7万～8万トンの材木が必要だと言われていました。そこに多気町の工場ができ上がれば、多分、同程度の材木が必要になってくる。さらには、津市にもでき上がる。いろんな可能性がある中で、では、それほど材があるかということ、そういうわけではございません。

ところが、今も言いましたとおり、山には木は生えているんです。実際にどうしてももらうかといえ、山にある木は50年以上経っている木がほとんどです。大体35年～45年ぐらいのところでは切れるのです。CO₂を吸収して随分大きくなるんです。100年生と50年生の木は、見てもわかりません。年輪で数えればわかりますが、100年生になれば、すごく大きくなるかということ、そういうわけではない。結局、値段の話であるとか、さまざまなことから、切れる木が出てきていないというのが現状です。

ならば、早く育つ木で、しかも、この木質バイオマスにきちんと対応でき、しかも、低コストでできる木を植えていくような形に変えていったらどうかというのが、私どもの提案です。例えば広葉樹、クヌギというのは、10年から15年で成木になります。サイクルが非常に短い。そういった木を植えていくことによって、その木質バイオマスがきちんと稼働できる態勢をつくっていきける。そういうこともこれから目指していかないと、林材業はなかなか生き残っていけないと私は思います。そういったことにぜひとも県もご理解をいただきたい。

それをともにやることによって、森が守れていくということだと思っています。ぜひとも、これは市というより、多分県全体、どこでも抱えている課題だと思いますので、ぜひともご一考いただきたいと思っています。

知 事

ありがとうございます。今、竹上市長からおっしゃっていただいたように、低コストで植林や育林をしていけるような事業を、我々としても進めているところですが、その対象になっているのが、今、まさに市長がおっしゃっていただいたように、杉とかヒノキだけになってしまっているので、市長がおっしゃったような、早い樹種が重要だと思いますので、クヌギとかコナラなどについて、事業の対象とできるかどうか検討したいと思えます。

合わせて、今、更に成長が早くて高い収益性が得られるということで、センダンとかコウヨウザンとか、センダンはケヤキの代替で家具とかに使われていて、コウヨウザンは杉の代替で合板等に使われていますが、こういう事例も参考に、いろんな針葉樹以外にも新しい林業経営の導入の検討もしていく必要があるのではないかと考えており、広葉樹の植栽の件は、

大台町長からも1対1対談でお話いただきましたので、事業に組み込めるか、ぜひ検討したいと思います。

松阪市長

ありがとうございます。これは多分県内の森林を抱えているところは、皆、課題と捉えると思いますので、ぜひともよろしくお願いします。

6 東京駐在所の開設に伴う支援について

松阪市長

最後でございます。実は私、市長にさせていただいてから、もう少しで丸10カ月ですが、この間に既に東京の出張が9回あります。例えば、秋、市長になってすぐ行ったのが、各省庁の要望活動、例えば松阪市の場合は、中勢バイパス、津松阪港があります。それから、櫛田川があります。国道42号多気バイパスがあります。そういった期成同盟会という形の中で、国へ直接行ってお願いをする機会が本当にたくさんあります。

さらに申し上げれば、いわゆるトップセールスということで各企業を回ります。本社はほとんど東京です。大きな企業の本社は東京にしかございません。東京へ行って、その責任者のどなたかに直接お会いして、松阪に何とか来ていただけないかであるとか、既に進出をいただいているところに、引き続き協力をしてほしい、さらには拡充をしてほしいなど、いろんなお願いをしていくために東京へ行っています。

さらに申し上げれば、経営文化セミナーという形の日本橋とのおつき合いです。これは本当に大切にしていきたいと思っています。例えば、今、話題になっております三越さん、松阪へ何とか来てほしいということです。ずっと交渉をしているところです。それも東京の日本橋、銀座店とか、いろんなところに本社がある。そこへ行ってお願いをしてもらうということがどうしても必要になってきます。

そんななかで、私が本当に感じましたのが、東京に駐在が1名いるだけで随分これは助かるだろうなど。随分、市政にとって有効だろうと思いました。でも、松阪市で東京に駐在所をおいて大々的にできるか、なかなかそこまでのこともできないというなかで、何とか県のほうにも支援をしていただける手立てはないかということで思っております。

県内には東京事務所を持っている大きな市はあろうかと思いますが、我々レベルですと、なかなかそこまでたどり着けない。けれども、どうしてもニーズとして東京に職員等がいれば、相当に助かるという面から、何とかいろんなご支援をいただけないかと考えております。ぜひともよろし

くお願いします

知 事

ありがとうございます。竹上市長がおっしゃっていただいたような、例えば東京事務所のスペースであるとか、三重テラスの事務所のスペースであるとかはわかりませんが、どういう形で実現できるか、ぜひ調整をしたいと思います。前向きに対応したいと思います。

実際に平成9年から15年度まで、久居市が県の人事交流で東京事務所に職員を派遣していただいた前例があるのと、現在、東京事務所がある都道府県会館には、いろいろな他県のケースもありますので、ぜひ、どういふふうにしたら実現できるのか。あとは、松阪市だけ言ってきたのでというのではなく、ほかの市町の皆さんにも、いろいろな機会の平等があったほうがいいと思いますので、そういうことも含めながら、前向きに協力して調整したいと思います。

松阪市長

前向きな発言ありがとうございます。努力した者が報われる、早い者勝ちという言葉もありますので、ご検討いただければと思いますのでよろしくお願いします。

4 閉 会

知 事

竹上市長、ありがとうございました。

この10カ月間の中でさらに松阪を打って出て、人も集まる、情報発信される松阪市にしていきたいという強い意欲をお聞きすることができ、有意義な時間をすごさせていただきました。これからも連携をして進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

また、本日は手話通訳の皆さんありがとうございました。松阪市に続いて三重県でも手話言語条例が議員提案で今般、成立したところです。全国の33の県が加盟する手話を広める知事の会の副会長になりましたので、しっかり進めていきたいと思います。引き続き、竹上市長よろしく申し上げます。今日は、皆さんどうもありがとうございました。